

国際ロータリー第2790地区
東金ロータリークラブ会報
2006年平成18年第9月6日 第48号 第29号

創立 1959年(昭和34年)9月15日
RI承認 1959年(昭和34年)10月17日
例会日 火曜日 12:30~13:30
例会場 東金商工会館 4階

2006-07年度 国際ロータリーのテーマ

率先しよう

R I 会長 ウィ廉・ビル・ボイド
ガバナー 白鳥 政孝
ガバナー補佐 菅井 直秀
会長 秋葉 芳秀
幹事長 尾 邦俊
クラブ広報委員長 山本 忠司

第2297回例会 9月5日 12:30点鐘 例会場

今週の合唱 = 君が代・奉仕の理想

会長挨拶 幹事報告 ニコニコBOXの発表 誕生日会 委員会報告
米山奖学金授与 頂話 やっさまつり推進協議委員 出席報告 閉会宣言

***** 前回の記録 (8月22日) *****

会長挨拶 秋葉芳秀会長



8月24日の日本経済新聞に金剛組の記事が載りました。私はこの会社を前から知っていました。1400年続いた富士大工組織であり、日本どころか世界最古の企業だからです。私は結婚式のスピーチで、跡継ぎの新郎に対し、「30年や40年ではなく、とりあえず100年生き残つていただける事業を展開しましょう。大阪の金剛組は1400年も続いているんですよ」と、馬鹿の一つ覚えとして必ず呼びかけたものでした。

その金剛組の記事ですから興味深く見たところ、何と本体は破産し、事業と大工集団は高松建設という東証一部上場企業が完全子会社(同名の金剛組)を設立し継承した、との内容でした。事業破綻の原因は、1980年代の多額の不動産投資、国宝クラス級の寺社からの受注減、そして売掛金の回収遅延による資金繩りの悪化という一般的なものです。しかし1400年の間には何度も経験したことがあり、本質原因ではないと思います。

金剛組はゴーイングコンサーンとして継続します

が、金剛一族の経営する組織は、第40代の金剛正和氏を最後に、1429年の歴史に幕を引きました。寂しい限りです。
1400年以上の長寿を保った特長を要約すると、環境の変化に敏感に対応するも本業を重視、資金調達は保守的で、質素儉約を旨とする予期し得ない将来の危機に備え、「組」という徹底した人材育成システムを構築、になるようです。

現代に於いても参考にすべきことは多いと思います。

幹事報告 長尾邦俊幹事

1. 2005~2006年度 地区大会寄付者名簿の訂正がけられています。

2. 9月16日(土)13:00より東雲閣にて土屋康郷の葬儀のご案内がけっております。

3. 東金ビューラーより9月の例会案内

例会場 サンピアホール

9月 7日 ガバナー補佐訪問 点鐘 19:00

9月 14日 ガバナー公式訪問 点鐘 12:30

9月 21, 28日は通常例会

委員会報告

会員増強委員会 並木孝治委員長

8/22夕方6時から10名で委員会を開きました。毎月委員会を開き経過報告をします。

ロータリー財団委員会 小林清益委員長

地区ロータリー財団の委員会に会長と共に出席しました。地域における人道的、教育的、文化交流ブ

ログラムに補助金が出ます。東金でも何かありますなら申請したいと思います。申込締切は毎年9月末になります。

親睦活動委員会 井上五男委員長

9/12(火)創立記念例会に、ご家族の方が一人で多く参加いただきたくご案内します。

卓話 豊福 豊次会員

「我が国の食料自給率について」



1. 我が国の食料事情

我が国のカロリーベースの食料自給率は、昭和40年度の73%から50年度には54%へと短期間に大きく低下し、その後、ほぼ横ばいで推移しましたが、60年度以降再び大きく低下し、平成10年度には40%となり、それ以降は7年連続で40%と横ばいで推移しています。

それでは、先進国の食料自給率を比較してみると、オーストラリア230%、フランス130%、アメリカ119%、英国74%で先進国の中で我が国は最低水準となっています。

世界173の国・地域の中で日本は124位であり、OECD加盟国30カ国中27位で、アイスランド、オランダに次ぐ低さとなっています。

そこで、食料自給率低下の主な原因是、

食生活の大きな変化により、国内自給可能な米の消費が減少する一方、国内生産が困難な飼料穀物や油糧原料(大豆、菜種)を使用する畜産物や油脂類の消費増加がありました。

生産が消費者のニーズなどに十分対応しきれず、生産の向上や品質の改善を図るために取り組みが不十分でした。

2. 品目別食料自給率の推移(%)

	昭40	昭50	昭60	平10	平16
米	95	110	107	95	95
小麦	28	4	14	9	14
芋類	100	99	96	85	83
大豆	11	4	5	3	3

果実	90	84	77	49	39
肉類	90	77	81	55	55
鶏卵	100	97	85	71	67
乳製品	86	81	85	71	67
魚介類	100	99	83	57	49
油脂類	31	23	32	15	13
卵自給率	73	54	53	40	40
食料自給率	86	83	82	70	70

3. 定番メニューの自給率

〔天ぷらそばの自給率〕

そば21%、えび5%、ネギ91%、天ぷら粉7%、卵9%、植物油2%、かつおだし88%、砂糖35%、しょう油0%、本みりん95%、生椎茸72%、かまぼこ50%

4. 食料自給率が低いことの問題点

(1) 現在既に約8億人の人々が飢餓や栄養不足に直面していることや、今後世界的には人口増加や途上国への経済発展が予測されることから食料の需要が大幅に増加が見込まれます。

(2) 農業生産についても、水資源の枯渇や過度な放牧による土壌の劣化という問題があり、中長期的には世界の食料需給はひっ迫する可能性が指摘されています。

5. 食料自給率を向上させるための「食料・農業・農林基本計画」

国内の農業生産の増大を図ることを基本に、これと輸入と備蓄とを適切に組み合わせて長期的には、国民に供給される食料の5割以上を国内生産で賄うことを目指し、当面計画内、平成27年度における自給率目標を45%に設定しました。

6. 目標達成するため重点的に取組むべき事項

〔消費面〕

- ・食育の推進
 - ・国内生産物の消費拡大
 - ・国内農産物に対する消費者の信頼確保
- 〔生産面〕
- ・経営感覚に優れた担い手による需要に即した生産の促進
 - ・食品産業と農業の連携の強化
 - ・効率的な農地利用の推進

出席率

会員	出席者	出席率
34名	26名	76.47%
コインBOX	2,569円	2